

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
主任部長兼検査科部長 兼臨床検査センター長兼甲状腺センター長	高野 徹
副部長兼糖尿病センター長	大槻 朋子
副部長	川知 祐介
医 長	高山 瞳
副医長	小椋 紫芳
非常勤医員	山西 雅之

＜特色と概要＞

糖尿病・内分泌代謝内科では、糖尿病および内分泌代謝疾患患者の外来および入院診療を行っている。外来部門において、糖尿病、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患の外来診察、糖尿病合併症進行予防のための療養指導（フットケア外来、透析予防外来）、甲状腺疾患の特殊検査・治療（RI検査・治療、甲状腺腫瘍のエコーガイド下穿刺吸引細胞診、PEIT）を行っている。病棟部門においては内分泌代謝疾患および一般内科疾患の入院中の管理を行っている。また他科入院症例の血糖コントロールを共観として担当している。

＜実績＞

外来診療については、糖尿病、甲状腺、その他内分泌疾患の患者を主に診療し、年間の延べ外来症例数は9,777人、紹介予約件数は408件であった。また検査として甲状腺エコーおよび穿刺細胞診を当科で実施している。

入院総症例数は291症例であった。糖尿病症例は162例（1型糖尿病17例、2型糖尿病57例）であった。このうち教育入院は192例であった。また2021年10月より妊娠時糖代謝異常の症例を当科にて担当開始し、今年度は49症例を経験した。内分泌疾患は18例（下垂体機能低下症精査5例、原発性アルドステロン症精査2例、副腎精査5例）であった。救命診療科入院後の転科症例などの一般症例（尿路感染症、肺炎等）は107例であった。

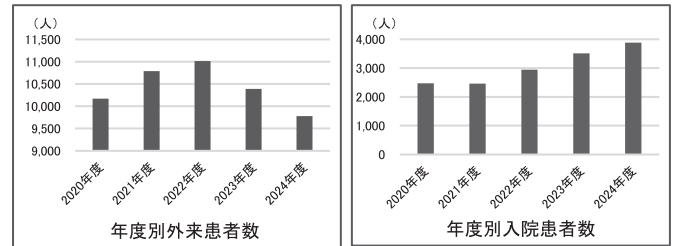
糖尿病患者の外来での療養指導としては糖尿病透析予防指導を12件行った。またフットケア外来における患者指導は245件行った。糖尿病教室は23回開催し、のべ306人が参加している。

院外啓発活動として、第8回世界糖尿病デー、りんくう健康フェスタを2024年11月16日（土）に行った。テーマは『糖尿病と動脈硬化～あなたの血管を守ろう～』であり、当院理事長の山下静也医師の講演の他、骨密度チェックやABI測定などの無料検査、フレイル度チェックの体力測定などを

行った。

患者数（外来及び入院、延べ人数の推移）（人）

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2020年度	10,171	41.9	2,470	6.8
2021年度	10,787	44.6	2,460	6.7
2022年度	11,014	45.3	2,944	8.1
2023年度	10,390	42.8	3,508	9.6
2024年度	9,777	40.2	3,882	10.6



入院患者の疾患名と人数（主病名件数 上位50まで）
（期間2024/4/1-2025/3/31退院）

主病名 (ICD10コード名)	ICD10	件数
妊娠中に発生した糖尿病	O244	49
肺炎, 詳細不明	J189	35
詳細不明の糖尿病	E14	28
2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>	E11	26
2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>, 多発合併症を伴うもの	E117	17
1型<インスリン依存性>糖尿病<IDDM>	E10	15
エマーゲンシーコードU07.1	U071	10
尿路感染症, 部位不明	N390	9
詳細不明の糖尿病, ケトアシドーシスを伴うもの	E141	6
食物及び吐物による肺臓炎	J690	6
2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>, 合併症を伴わないもの	E119	6
2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>, 腎合併症を伴うもの	E112	5
下垂体機能低下症	E230	5
低血糖症, 詳細不明	E162	5
体液量減少(症)	E86	4
低浸透圧及び低ナトリウム血症	E871	4
細菌性肺炎, 詳細不明	J159	4
既存の糖尿病, 詳細不明	O243	4
喘息, 詳細不明	J459	4
肺炎を伴うインフルエンザ, インフルエンザウイルスが分離されないもの	J110	3
内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>, 副腎	D441	2
発熱, 詳細不明	R509	2
慢性閉塞性肺疾患, 詳細不明	J449	2
1型<インスリン依存性>糖尿病<IDDM>, ケトアシドーシスを伴うもの	E101	2
アナフィラキシーショック, 詳細不明	T782	2
胸水, 他に分類されないもの	J90	2
その他及び詳細不明の副腎皮質機能不全(症)	E274	2
原発性アルドステロン症	E260	2
気管支炎, 急性又は慢性と明示されないもの	J40	2
敗血症, 詳細不明	A419	2
心不全, 詳細不明	I509	2
肺線維症を伴うその他の間質性肺疾患	J841	2
急性増悪を伴う慢性閉塞性肺疾患, 詳細不明	J441	2
急性尿細管間質性腎炎	N10	2
2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>, その他の明示された合併症を伴うもの	E116	2
細菌感染症, 詳細不明	A499	2
クッシング<Cushing>症候群, 詳細不明	E249	1
既存の2型<インスリン非依存性>糖尿病	O241	1
本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	I10	1
その他の明示された糖尿病	E13	1
気管支肺炎, 詳細不明	J180	1

主病名 (ICD10コード名)	ICD10	件数
その他の明示された敗血症	A418	1
貧血, 詳細不明	D649	1
高浸透圧及び高ナトリウム血症	E870	1
感染症が原因のその他及び詳細不明の胃腸炎及び大腸炎	A090	1
昏睡, 詳細不明	R402	1
カルシウム代謝障害	E835	1
アレルギー性接触皮膚炎, 原因不明	L239	1
起立性低血圧(症)	I951	1
細菌性腸管感染症, 詳細不明	A049	1

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

新型コロナウイルス感染症が蔓延している間は糖尿病等内分泌疾患の患者が当科の受診を避ける傾向があり、外来の紹介患者や新規の入院患者、特に糖尿病教育入院の患者が減少していたが、診療体制は以前の状態に戻っており、住民への啓発活動も以前と同じように実施することができるようになった。

病診連携の一環として、今年度から糖尿病の合併症検査を近隣医が直接申し込めるようなシステムを立ち上げた。今後はこのような取り組みを活用して、外来での紹介患者の受入数の増加や糖尿病教育入院を始めとした入院患者の増加を図っていきたい。